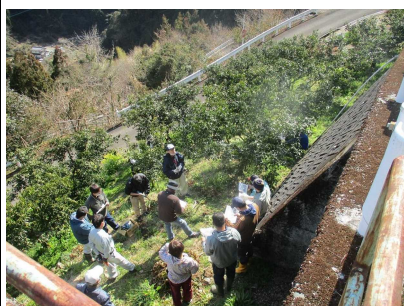


普及活動情勢報告（令和5年2月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

ユズの青果率向上による所得向上に向けて ～JA高知県コスモス柚子部会が剪定講習会を開催～



2月17日、JA高知県コスモス柚子部会がいの町吾北地区で剪定講習会およびドローンを使った防除実演会を開催し、生産者19人が参加しました。

農業改良普及課は、ほ場のユズ樹を使って電動バサミ、電動ノコギリ等の省力化機器による剪定の実演や葉面積指数測定アプリについて説明しました。

生産者からは、樹の仕立て方や葉数の確保、着果予測による剪定程度の違いなど基本的な剪定技術の他、省力化機器導入時の注意点や測定アプリの使い勝手などについて質問がありました。

農業改良普及課は今後もJA等関係機関と連携し、剪定指導や省力化機器の普及をとおして、ユズ農家の所得向上に向けて支援していきます。

いの町農業公社の経営効率化を目指して ～いの町農業公社のサポート戦略会議を開催～



1月24日、いの町役場吾北総合支所でアドバイザーを交えて、農業公社職員2人と関係機関6人が戦略マップをもとに、年度目標の確認や吾北の農業を守るための方策等を話し合いました。

農業改良普及課は、アドバイザーと共に半農半Xの考え方や研修生等の募集方法等について助言しました。また、役場からは「新たな生産部門としてユズ苗木を生産していきたいので、指導者の研修が必要」との意見が出ました。

農業改良普及課は、今後も新規研修指導者の育成とユズ苗木生産等について、関係機関と連携しながら支援していきます。

黄化えそ病の発生状況と今後の対策について ～JA高知県とさし胡瓜部会が高岡・波介地区でキュウリ現地検討会を開催～



2月14日、土佐市のキュウリ生産者のほ場で、現地検討会が開催され、生産者10人が参加しました。

農業改良普及課からは、直近5年における黄化えそ病年内発病株率1%以上の農家割合の推移について報告しました。一方、黄化えそ病の被害は減少傾向にあるものの、野外アザミウマ類の捕殺数は大きく変化していないため、4月からの増加に備えた対策として、防虫ネットの破れやたるみなどの確認に加え、ミナミキロアザミウマの発生時の葉の状態や発生初期における防除の重要性についても周知しました。

生産者からは、使用する農薬についての質問が出され、防除への意識を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携し、適期に黄化えそ病対策を行うよう周知をしていきます。

昨年の振り返りと今後の経営について検討 ～サポートチームによる新規就農者のほ場確認と面談を実施～



1月24、25日、2月6、14日、土佐市でピーマンやアキマメ等を栽培している新規就農者9人を対象に、関係機関や農業委員等で構成するサポートチームが、ほ場確認および面談を行いました。

面談では、経営実績に基づいた昨年の振り返りや現在の営農状況と課題、今後の目標について確認・共有しました。

新規就農者からは「省力化のために自動灌水装置を導入したい」、「収益向上のために新しく導入した品目の規模を拡大したい」等の声がありました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携し、新規就農者の早期経営安定に向けて支援していきます。

日高村のハーブ栽培農園を視察
～中央西地区農村女性リーダーが視察研修会を開催～



1月27日、中央西地区農村女性リーダーが日高村のVegefulportで視察研修会を開催し、4人が参加しました。研修会では、経営者が大阪から移住したいきさつや、ハーブやベビーリーフの栽培、収穫、配達、納品からイベント販売まで1人で手がけていることなどを伺いました。

農業改良普及課は、視察研修会の企画や運営を支援し、参加者からは、「経営者のハーブへの熱い思いやレストランとのやり取りがとても興味深かった」、「自身の販売方法とは異なっていて違う角度から見ることができた」等と声がありました。

農業改良普及課は、今後も農村女性リーダーの自主的な活動を支援していきます。